

授業科目	こころと人間					実務家教員担当科目	-				
単位	2.	履修	選択	開講年次	2	開講時期	前期				
担当教員	松田 憲										
授業概要	<p>心理学とは「心」の働きを科学的に研究する学問である。心理学と一口に言っても様々な分野が存在する。本講義では、外界の情報を感覚器で受容するところから話を始め、注意、記憶、情動、さらには言語や思考といった高次の心の働きまでを順を追って解説する。また、心の働きを生み出す実体である脳、ヒト以外の動物の心の働き、加齢にともなう心の働きの変化、社会的環境や文化が心の働きに及ぼす影響などについても解説する。授業中に様々な現象をデモンストレーションし、日常生活との関わりを紹介する。本講義を通して、心理学を身近なものとして感じ、日常の経験について科学的な視点から考えられるようになることを期待する。</p>										
授業形態	講義 小レポート			授業方法	対面講義						
学生が達成すべき行動目標											
標準的レベル	<p>1. 心理学の基礎的な研究内容を説明できる。 2. 心の働きを支える脳の機能について説明できる。 3. 日常生活で経験する様々な現象を心理学と関連づけて論じることができる。</p> <p>心理学の基本的な知識を身に付け、それを他の人に説明することができる。また、心理学の知識を現実場面のさまざまな問題と関連づけることができる。</p>										
理想的レベル	<p>心理学の基本的な知識をよく理解し、それを他の人に正確に伝えることができる。また、心理学の知識を応用して、現実場面のさまざまな問題について科学的に考察することができる。</p>										
評価方法・評価割合											
評価方法		評価割合（数値）				備考					
試験		50%									
小テスト											
レポート		50%									
発表（口頭、プレゼンテーション）											
レポート外の提出物											
その他											
カリキュラムマップ（該当 DP）・ナンバリング											
DP1	○	DP2	-	DP3	-	DP4	-	DP5	-	ナンバリング	EN10407J T010407J
学習課題（予習・復習）										1回の学習目安 （時間）	
講義で配布された資料を読み直す										4	
授業計画											
第1回	テーマ：心理学とは 心理学とはどのような学問領域なのか、および心理学の歴史について概説する。										
第2回	テーマ：感覚と知覚1										

	視覚と聴覚を中心に、感覚・知覚について解説する。
第3回	テーマ：感覚と知覚2 様々な感覚・知覚現象についてデモを交えながら解説する。
第4回	テーマ：多感覚統合 感覚モダリティ間の相互作用について解説する。
第5回	テーマ：選択的注意 視覚と聴覚における注意について解説する。 オンデマンドで実施。
第6回	テーマ：よさと感性 良い悪いとは何か、感性情報処理とは何か、について解説する。
第7回	テーマ：感情と情動 情動と、その生理学的基盤について解説する。 オンデマンドで実施。
第8回	テーマ：学習理論、強化スケジュール 条件づけなど学習の基礎的知識と強化の方法について解説する。
第9回	テーマ：記憶 記憶の過程、区分、種類、忘却、記憶と感情とのかかわり、などについて解説する。
第10回	テーマ：対人認知、対人感情 他者の認識やそれに伴う感情について解説する。
第11回	テーマ：対人関係 対人関係の形成と維持、友情と愛情について解説する。
第12回	テーマ：認知発達 発達段階に応じた認知の発達について解説する。
第13回	テーマ：コミュニケーション 対人コミュニケーションの分類と機能、深化プロセス、コミュニケーションの障がいについて解説する。
第14回	テーマ：説得と態度変容 効果的な説得と、それへの抵抗について解説する。
第15回	テーマ：認知バイアス 意思決定に関わる認知の偏りや不合理さについて解説する。
テキスト	指定なし。毎回講義資料を配布します。
参考図書・教材 ／データベース・ 雑誌等の 紹介	無藤 隆ほか（著） 『心理学』（有斐閣） 鹿取廣人ほか（編） 『心理学 [第4版]』（東京大学出版会） 箱田裕司ほか（著） 『認知心理学』（有斐閣） 道又 爾ほか（著） 『認知心理学－知のアーキテクチャを探る [新版]』（有斐閣）
課題に対するフィ	レポートの内容等については、授業の中で指示します。

ードバックの方法	
学生へのメッセージ・コメント	<p>本学においては、この領域では数少ない科目です。特に予備知識等は必要ありませんが、非常に幅広い分野に応用できる内容ですので、積極的に取り組む姿勢を求めます。</p> <p>図書館等で参考になる書籍を探してみてください。最近ではテレビや雑誌等で心理学が扱われる機会が増えていますので、注意して見るのもよいでしょう。授業では、実際に様々な現象をデモンストレーションし、体験してもらいますので、心理学を身近なものとして感じて興味を持ってほしいと思います。また、私語・携帯電話の使用など、他の受講生の迷惑となるような行為は固く禁じます。</p>